JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	学術コミュニケーションと出版
Author(s)	原田, 隆; 白川, 展之; 高橋, 愛典; 設楽, 成実
Citation	年次学術大会講演要旨集, 38: 1-2
Issue Date	2023-10-28
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19287
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN ADVANCED INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

ＳＰ０１

学術コミュニケーションと出版

○原田　隆（東京工業大学），白川展之（新潟大学）, 高橋愛典（近畿大学），設楽成実（京都大学）
代表者連絡先：harada-takashi@tokodai01.onmicrosoft.com

1. 概要

2023 年度、研究・イノベーション学会「大学経営研究懇談会」（「本懇談会」）は「大学が学術出版をする意義と方向性」をテーマとしたオンライン研究会を定期的に開催してきた[i]。本セッションは、これまでの活動を踏まえ出版を「学術コミュニケーション」の手段の１つと捉え、学術出版の意義、状況や評価の変遷、そして今後の展望についてディスカッションを行う。

本セッションは有識者４名による話題提供と参加者とのディスカッションにより構成される。宮入暢子氏には「学術コミュニケーションにおける出版の位置づけとその変遷」についてご報告いただく。鈴木哲也氏には「学術書の現代的意義と大学出版社の役割」についてご報告いただく。林和弘氏には「オープンサイエンスとオープンイノベーション促進の両立の観点求められている新たな研究・論文出版体系」についてご報告いただく。高橋愛典は本懇談会成果の１つとして大学が発刊する出版物である「紀要」の特徴と役割、そして今後の展望について報告する。

2. 主催・共催機関

主催：研究・イノベーション学会大学経営研究懇談会（https://www.jsrpim-daigakukeiei.jp）
共催：紀要編集者ネットワーク（https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp）

3. 講演者

宮入暢子（学術コミュニケーションコンサルタント）
http://nobuko.miyairi.info/
東京を拠点にフリーランスとして、STM 出版や学術コミュニケーションにおける新規ビジネス開発とスタートアップに関する戦略コンサルティングに従事。その他、情報通信研究機構招聘専門員（2019-）、DataCite APAC Expert Group member（2020-）、青山学院大学コミュニティ人間科学部非常勤講師（2022-）など。過去には ORCID (http://orcid.org)のアジア・太平洋地区ディレクター(2015-2018)、ネイチャー・パブリッシング・グループ（現シュプリンガー・ネイチャー）のカスタム出版ディレクター(2012-2015)、トムソン・ロイター（現 Clarivate）の東南アジアビジネス開発主任コンサルタント(2009-2012)など。機械学習モデルにより論文の自動要約を作成する Paper Digest のアドバイザーとして、2018 年に Digital Science 社より Catalyst Grant、2019 年に Society for Scholarly Publishing (SSP) 第 41 回年会で People’s Choice Award を受賞。訳書に『学術コミュニケーション入門：知っているようで知らない 128 の疑問』（Rick Anderson 著, アドスリー, 2022）がある。米国ハワイ大学マノア校図書館情報学修士。

鈴木哲也（京都大学学術出版会専務理事・編集長）
京都大学文学部および教育学部に学ぶ。出版社勤務を経て 2006 年より現職。著書に、『学術書を読む』（2020 年）、『学術書を書く』（2015 年　高瀬桃子との共著）、『世界大学ランキングと知の序列化』（2016 年　分担執筆）（以上、京都大学学術出版会）、『京都の「戦争遺跡」をめぐる』（1991 年　池田一郎との共著）（地方・小出版流通センター、新装版：つむぎ出版）など。

林和弘（文部科学省 科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室長）
1995 年ごろより取り組んだ日本化学会の英文誌の電子ジャーナル化と事業化をきっかけに、学術情報流通の変革を軸とした科学、社会、科学と社会の変容（オープンサイエンス）の調査研究と実践に取り組む。日本学術会議、内閣府、文部科学省の委員等で日本のオープンサイエンス政策形成を支援し、G7 科学技術大臣会合、OECD、UNESCO のプロジェクト等においてはオープンサイエンス専門家として、世界における新たな学術知を生み出す基盤のトップダウンのコンセンサスづくりに貢献。

その一方で、RDA（研究データ連盟）の IG 共同議長、RDUF（研究データ利活用協議会）企画委員、SPARC Japan 運営委員会委員、京都大学学際融合教育研究推進センターアカデミックデータ・イノベーションユニット構成員、千葉大学非常勤講師として、ボトムアップのオープンサイエンス推進活動や教育にも取り組み、研究現場の行動変容を促し、政策とのすり合わせを行う。

髙橋愛典（近畿大学経営学部教授）
博士（商学）。専門はロジスティクス論、地域交通論。早稲田大学商学部助手、近畿大学商経学部講師、近畿大学経営学部助教授を経て、2013 年より現職。2022 年-2023 年、リーズ大学交通研究所 客員研究員。研究・イノベーション学会 大学経営研究懇談会幹事。

謝辞
科研費 基盤研究（C）23K02501 研究代表者：白川展之　研究期間：2023-04-01 – 2027-03-31
「大学評価への計量書誌指標の導入のもたらす人文社会科学研究への逆機能性に関する研究」

参考文献等
宮入暢子「＜システム＞としての学術コミュニケーション」紀要編集者ネットワーク、2023 年 7 月 18 日（https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/2023/07/nobuko-miyairi/）。
鈴木哲也、高瀬桃子「学術書を書く」京都大学学術出版会、2015 年 9 月。
鈴木哲也「学術書を読む」京都大学学術出版会、2020 年 10 月。
大隅典子、林和弘「新たな研究・論文出版体系の確立を」週刊医学界新聞（通常号）、第 3533 号（https://www.igakushoin.co.jp/paper/archive/y2023/3533_01?fbclid=IwAR1mh71mT86I4wchDTZCkyrnUe2r0anNCZCAzppwX-1uDR3DmCz1aYEiiYM）。
髙橋愛典「私，紀要の味方です―学術コミュニケーションの促進に向けて―」商経学叢、68 巻 3 号、pp. 131-153、2022 年 3 月 31 日（https://kindai.repo.nii.ac.jp/records/22829）。

---

[i] 本懇談会における学術誌関連研究については次を参照。
「大学が学術出版をする意義と方向性」
第 1 回開催報告
https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/2023/03/seminar2023-02-03/
第 2 回開催報告
https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/2023/05/seminar2023-04-20/
第 3 回開催案内
https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/2023/09/20230927/
「紀要の魅力と大学の役割」
https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/2020/12/report20201031/
「挑戦する日本の学術誌」
https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/2022/02/seminar2021-10-29/